

ディケンズ・フェロウシップ日本支部

2006 年度秋季総会

Annual General Meeting 2006, The Japan Dickens Fellowship

日時：2006年10月7日（土） 午後2時より

場所：東北大学川内南キャンパス

文科系総合研究棟 11階会議室

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 27-1

プログラム

開会の辞・議事 (14:00～14:45)

原 英一（日本支部長）

研究発表 (15:00～16:10)

司 会：田中孝信（大阪市立大学）

（1） 発表者：渡部智也（京都大学大学院）

Oliver Twist における「眠り」について

（2） 発表者：大森幸享（甲南大学大学院）

『二都物語』論——カートンの自己犠牲にみる自意識の働き——

特別講演 (16:30～17:50)

司 会：原 英一（東北大学）

講演者：西條隆雄（甲南大学）

「ディケンズと素人演劇活動」

懇親会 (18:30～20:30)

会 場：勝山館（しょうざんかん）

〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-1-50

Tel(022)213-9188 Fax (022)213-9546

会 費：7,000 円

問い合わせ先：東北大学大学院文学研究科英文学研究室

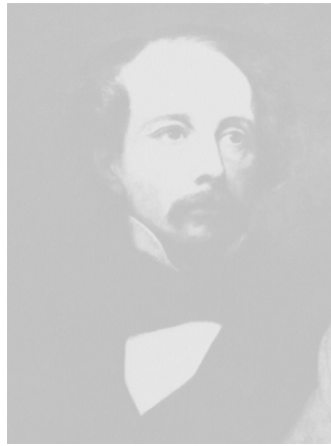
Tel & Fax : 022-795-5961, E-mail: hara_ei@sal.tohoku.ac.jp

研究発表要旨

*Oliver Twist*における「眠り」について

渡部智也（京都大学・院）

本発表は、ディケンズの初期の名作*Oliver Twist*における、ディケンズの「眠り」の扱い方について、三名の主要登場人物の眠りを元に論じる。まず主人公オリヴァーツイストの眠りには、彼が移動、環境の変化の後に現れる、という特徴がある。そしてその描写からは、その眠りが彼の疲労を癒し、辛いことを忘れさせることで、彼に生きる力を与えていることが窺える。次に、サイクス（注）の眠りからも同様のことが感じられる。彼の場合、元々は良い眠りを享受することで体力気力を回復できていたのに、ナンシーの殺害を境に眠れなくなり、最終的に死に至るのである。一方もう一人の悪人フェイギンは、作品中で眠ることがなく、逆に「眠らない」ことで、眠る他者の眠りを利用し、自らに有利な状況を作り上げる悪魔的人物である。しかし、そんな彼が最終的に牢獄を脱出しようと試みる際に頼るのは、それまで一度も頼ることのなかった、自らの「眠り」であった。このように主要な三名の登場人物の眠りの描写を考察することで、本作品においてディケンズが一貫して、「眠りには人を生かす力がある」という主張を行っている、ということが明らかになる。



『二都物語』論

—カートンの自己犠牲にみる自意識の働き—

大森幸享（甲南大学・院）

本稿は、『二都物語』における主人公シドニー・カートンの自己犠牲の根源を彼の強い自意識に着目して論じる。カートンが何のために死を選び、そしてなぜ自己犠牲という形で死を迎えたのかという点を論考の柱とする。カートンの自己犠牲とそれにとまなう死が、ルーシーへの叶わぬ愛と過度な感受性による死というメロドラマの筋書きに則っているとしても、その死にいたるプロットの描写のなかに彼の強い自意識の働きを見過ごすことはできない。カートンの心の内に形成されていく自己犠牲への意識は、ルーシーに対する恋愛感情だけでなく、ダーニーに対する嫉妬や愛憎、さらにはカートン自身に向けられた自己否定や自己嫌悪という否定的な自意識にまで及ぶ。このように考えると、彼の自己犠牲はロマンスにおける究極の愛情表現であると同時に、現世の苦しみからの解放を望み、精神的な安堵を求める行為といえるのではないだろうか。本稿では、カートンの発話と行為に垣間見る彼の自意識を探り、自己犠牲にいたる彼の心理を考察する。

特別講演

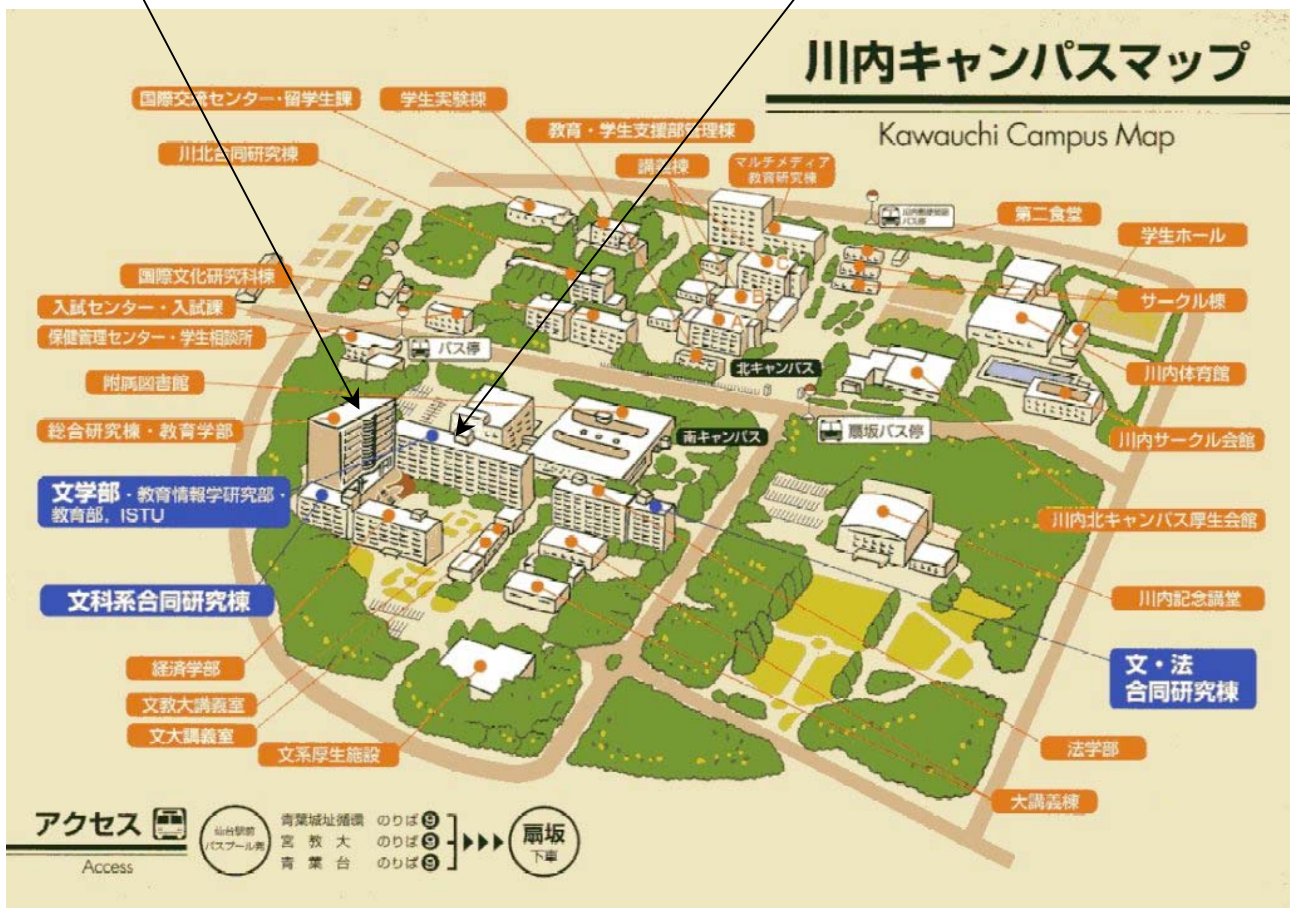
「ディケンズの素人演劇活動」

西條隆雄（甲南大学教授・前日本支部長）

ディケンズの素人演劇活動はよく知られているものの、脚本名の特定とそれら入手するのがむづかしいので、実際にはどのようなものであったか長い間わからなかった。その脚本を集め、興行を追いつつ演劇家としてのディケンズ像を求めるとともに、彼の演劇活動が創作活動とどのように関係しあっていたかを論じてみたい。

会場はこの建物の11階（最上階）

英文学研究室（事務局）はこの建物の8階です



東北大学川内キャンパスへの 交通手段

JR 仙台駅西口より青葉通を西に進み、約 2.5Km.

JR 仙台駅西口バスプール(9 番乗り場)より市営バス(「宮教大」行き、「宮教大・青葉台」行き、「宮教大・成田山」行き、「青葉通・理・工学部・仙台城跡南経由 動物公園循環」)乗車、「扇坂」バス停にて下車(約 15 分, 180 円).



ここに掲載した地図など、詳しい案内は下記をご参照ください。

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/map.html>